

センター長に就任しました

福島大学人間発達文化学類附属

学校臨床支援センター長 青木 真理

2021年4月より、宗形前センター長の後を引き継いで、学校臨床支援センター長に就任しました。旧総合教育センターから、人間発達文化学類附属学校臨床支援センターに改組されて3年目です。

私は1997年に福島大学教育学部附属教育実践総合センターの専任教員に着任しました。その前身は、1981年に設置された教育学部附属教育実践研究指導センターで、私が着任する1年前に「総合化」されて教育相談部門が設立されていました。私より半年早く着任した中野明德教授とともに、相談室整備、研修講座開設など、センターの様々な事業に取り組みました。2005年より全学の総合教育研究センターとなり、2006年に教育履修部門、FD部門（のちに高等教育開発部門）が開設されて、教育相談部門、現職研修部門、キャリア開発教育研究部門（のちにキャリア研究部門）と合わせて5部門のセンターとして運営されることになりました。

2019年に「学校連携部門」「教育相談部門」「現職研修部門」の三部門から成る人間発達文化学類附属学校臨床支援センターとなりました。高等教育開発部門、キャリア研究部門は本センターから独立し、教育推進機構へと業務移行を行いました。センターが人間発達文化学類附属になったことで、組織の位置づけとしては以前の教育学部附属センターに戻ったと言えます。

その時代時代での大学が追究する課題が、センターの組織改革に反映していると言えるでしょう。

そして、2020年からの世界的な新型コロナウイルスの感染拡大というパンデミック状況の中、大学は、センターは、先の見通しを持つことが非常に難しい中、その運営、活動を行っています。この状況の中で何ができるかを考え実践すること、この状況を分析し、先に生かすことは、大学の重要な使命であります。

本誌は、いつの時代も、その時々での教育的課題への取り組みを掲載してまいりました。今後も、その使命は変わりません。パンデミックにより、私たちの生活様式は変わり、ものの考え方も変わらざるを得なくなりました。また、これまで以上に人のありよう、社会のありようの多様性への関心が高まっています。そういう時代に取り組みされる教育的課題、教育実践に関して、今後も熱意ある論考を掲載してまいりたいと思います。